

# いの流水俳壇

## 「当季雑詠」

間 浩太選

### 峡の灯のまた一つ消ゆ春の雪

竹崎 光子

(評)春の雪という言葉には、雪深い地というより暖地での雪の感じがします。

関東から西の太平洋側では、真冬より早春に雪が降ることが比較的多い。貴重な水源を満たし、田畑に豊作の証しを告げるものと喜ばれるが北の雪国では喜ばれない感じである。

この句の作者の住所では、冬の大雪には困るが、春の近いころに積雪が全然ないと、水不足となる懸念がないでしょう。この句の峡の灯が消えたのは、冬の大雪だけでなく春の積雪のためでしょうか。

山峡の地区は過疎が続いて集落の機能が衰退するのではないかと心配されますが、春の雪のため過疎にならないよう祈りたいものです。

### リハビリの歩くりズムに下萌す

弘瀬うき子

(評)この句の作者「うき子」さんは卒寿を越えられたご高齢です。卒寿を迎えられた人たちの中では多くの方は、外出も少なくなり家に籠もるようになるのですが、うき子さんは足腰が弱くならないた

めの、リハビリに歩くのを継続されていますし、頭の訓練には俳句を作られて私たち老人のお手本だと思います。

長く寒かった冬からようやく春の気配が動きだして、冬枯の地面から青草が道の端、垣根の下、そして野にも園にも青草が萌えてきている。

籠もりがちまたふさがちだった人間の心にも冬から解放されて明るさがよみがえり、生活も明るく活動的になるのが、下萌のときです。

この句で、下萌にリズムがあると詠まれています。作者の心象でしょうか。いろいろな草花の順々に萌えるのは考え方によつては、リズムがあるといえそうです。

歩くのもご高齢故に速くは歩けません。歩くのにリズムがあると思いますし、このリズムに合わせて下萌のリズムが合っていると云ったのには感心しました。改めて考えてみれば動くもの、時間的なものは、長い期間ではそれぞれリズムをもって動くと思えました。優しいご家族に見守られまして、いつまでもお体と精神のご健勝をお祈りしています。

### 無造作に園児の手より流し雛

大川 節弥

(評)川に雛を流すのは雛が人間の身代りに厄災を負っていつてくれるという信仰からであるといわれる。

流された紙雛は浮き沈みしながらしだいに分解して水底に溶け消えていく。人間に振りかかる厄やけがれもこれによつて清められるわけである。

この句の雛は園児の作ったものですか

ら色紙で作られたものと思われ。作者として紙雛にせよ、流し雛のときには願いごとや祈りごともあると思われ。ですが、掌を合やすことも言葉を出さずに雛を水面に浮かべたので、無造作に流したと詠まれたと思われ。園児といえ少しでも敬虔な姿勢があればと作者も私も思いました。

園児のような年少者には無理でしょうか。

見回せば喪主の座にいる寒の雨 竹崎たかひろ

春近し短足歩幅伸びにけり 森岡 照月

田の人に声かけもして青き踏む 岡本とも子

ふるさとは四万十川の町水温む 小野川町子

春の雨角ぬれてくる回覧板 刈谷 志津

土手に山羊つなぎに行くも春休み 植田 紀子

土佐水木窓辺に揺れる童歌 岡村 嘉夫

こぼれたる蛇口の一音は春 友草 水月

無愛想な近所付き合ひ懐手 松尾満津於

犬の紐ぴんと弾みて山笑う 津田 久美

紅梅や新聞受けに旅ガイド 川村 博子

点滴の一つはずされ木々芽吹く 井上 郁子

不器用な生き方晒しおでん酒 間 浩太

次 題 「当季雑詠」 五句

締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

いの町3597 893-2012

平成23年度

こども川柳年間優秀作品

優秀作品

■最優秀賞

うす目あげ ふとんの中で サンタマウ

(評)待ち遠しかったクリスマス、待ち続けたプレゼント、わくわくですね。可愛く無邪気な子どもたちの素直で嬉しい。

■優秀賞

お日さまが 登ってくるよ 初日の出

(評)初日の出は一月一日一年のはじまり、力強く登ったお日様に明るい元気をもらおう。よい所に目を留め、川柳に読みよい年を迎えました。

新学期 たん任誰かな ドキドキだ

(評)担任の先生がかわる。楽しいようでちょっとびりさびしい。生徒たちの気持ちもドキドキよく伝わってきます。「たん任誰かな」の「な」の一字が残念。気を付けましょう。

■入選

ちきゅうから うみはどうして おちなの

川内小1年 ちだ みそら

カレンダー めくるとなぜか いきもち

川内小4年 手塚 涼太

雨上がり 空にかかった 虹の橋

川内小4年 伊藤 葉菜

旅の宿 オートロックで 閉めだされ

川内小6年 竹倉 秀太

さくらさく あなたのはほも さくらいろ

川内小5年 野口 朱莉

雨の音 ピロピロピトン ランランラン

川内小2年 筒井 咲希

かさ水 あたまキンキン 舌まっ赤

川内小6年 西森 優人

※「こども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。24年度初回提出締め切りは5月17日(木)です。たくさん皆さんの応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。

※学年は、平成23年度中のものです。